



東京日々新聞

庚

三百九二號



滝田幾右衛門

一萬齋
幾右衛門



轉々堂鈍々記

民小親愛と教る孝より
善い莫と余も氷上小
鯉魚と獲雪中小筆と
抜く古き教を固守て、
老母が長き病よ
食料湯薬二便
の看護聊も他人の
手と借に至まじり
尽せり其うそふ快
暗の日の脊負ふて遊歩し
母の喜々体を見く吾々
第一の歡樂とす而して多年
も一日の如し未だ秋浅き
季候るも氷と食せん
以望めり教里と阻らる
長沼山の溪間深く下らる
僅ふ氷と索得つ母と與へ孝子の
之を福島縣下岩代の國岩瀬郡
鏡沼村乃農民より廢金若干
賜りたり

